

沖縄のこどもまんなかWell-being プロジェクトの提案 ～これまでの議論をもとに～

こども・若者のこえを中心にしたPDCAサイクルで実現する持続可能な支援体制

国立成育医療研究センター 政策科学研究部/成育こどもシンクタンク
竹原 健二

現状

すでに共有されていること

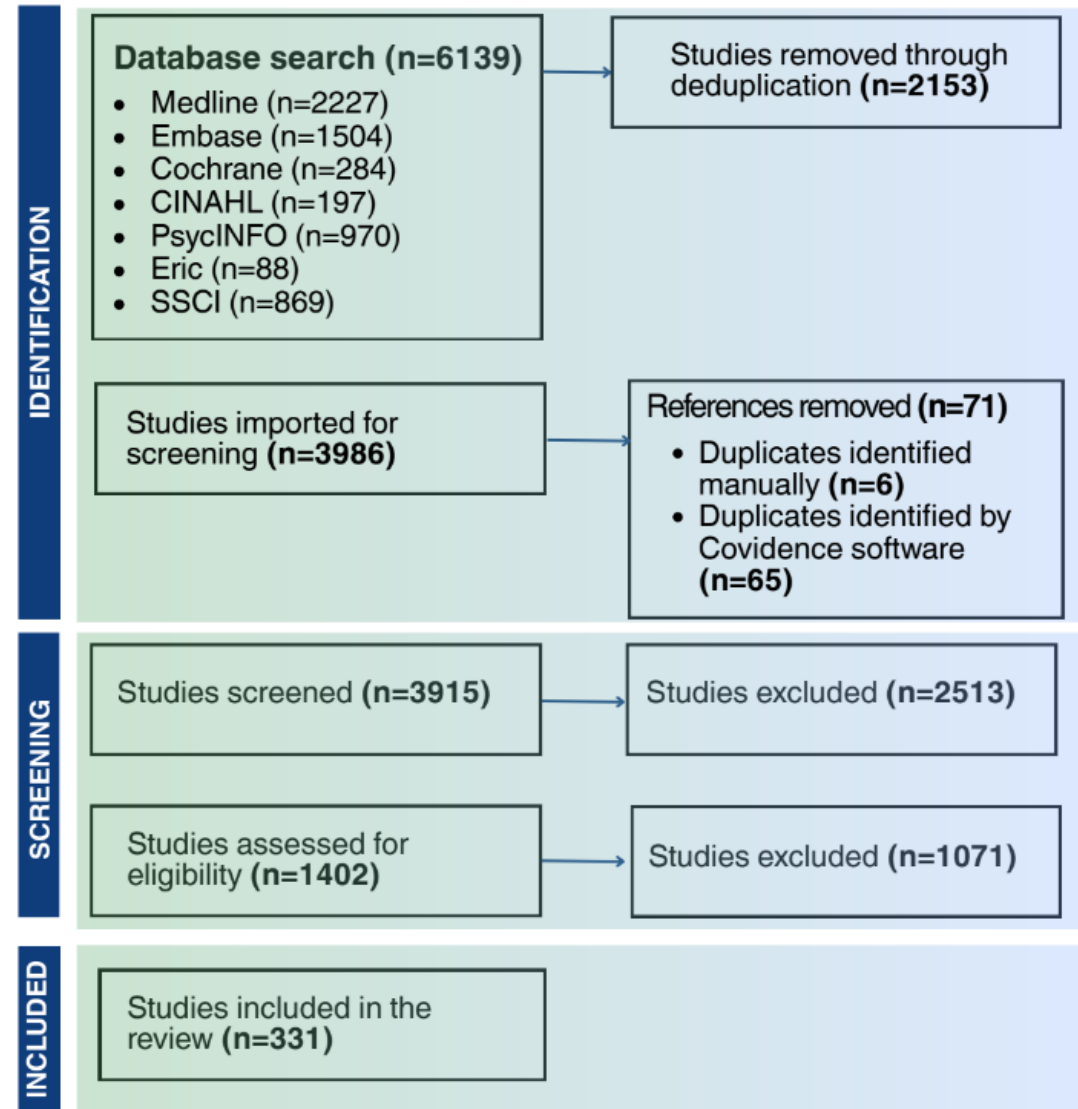
- こどものWell-being向上は重要な課題である
- 改善すべき課題は多岐にわたる

より一層、明確にしたいこと

- Well-beingとはなにか？
- この協議体の役割と目指すべき姿
- 具体的に何をどのようにすべきか

Well-beingに関するレビューの概要

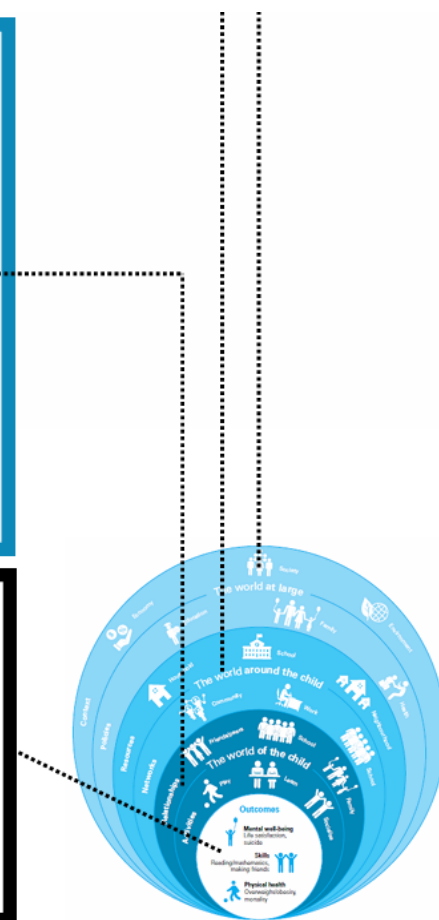
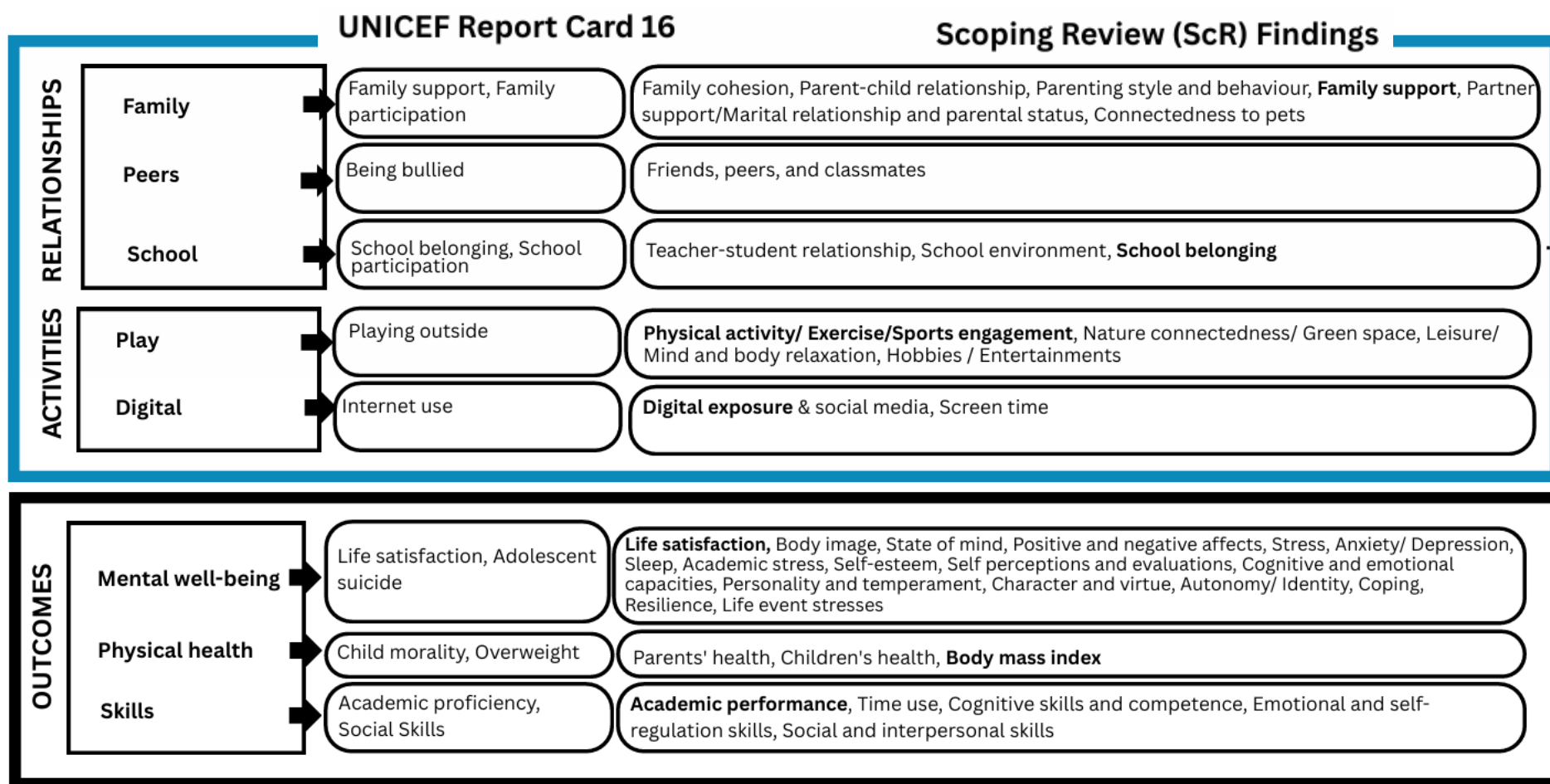
- 親子のWell-beingの構成概念、影響を与える要素などに関する系統的レビュー
- 7つの文献DBから網羅的に検索
- 欧米では“こども”だけに着目
 - ☞ 日本やアジアは“親子”は切り離せない!?
- 6,139件の論文から331件が該当



PRISMA Flow chart of study selection.

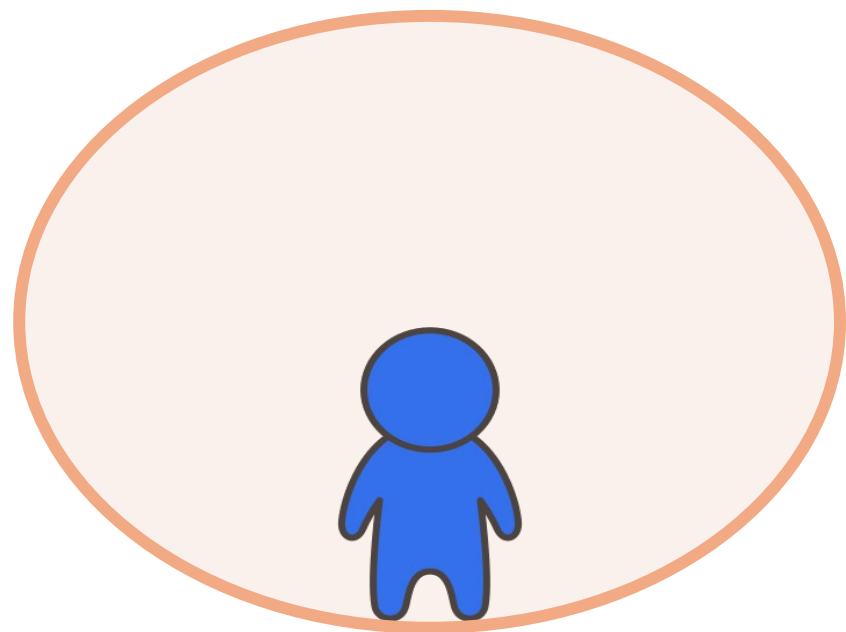
Well-beingに関するレビューの結果

- UNICEFのフレームワークに加え、より多くのWell-beingの構成概念を抽出
- Well-beingには多様な構成概念が含まれている (発表前なので、外部での使用はお控えください)



沖縄のこどもにとって大切なこと

～これまでの協議体の議論から～



こども・若者

- 自己効力感
- こころの問題
- 体験
- 将来への希望・夢

環境要素

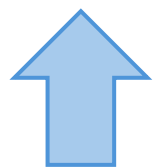
- 家庭・妊婦・親の状態
- 学校の役割
- 地域・コミュニティの形成
- 相談する/応援してくれる人
- 貧困対策

その他のキーワード

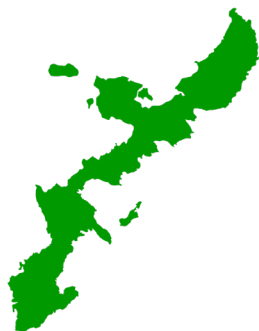
- すべてのこども対象（ポピュレーションアプローチ）
- データの利活用



既存調査・行政データ
琉大のプロジェクト
本プロジェクト成果物
+
こどものこえ
各種データ収集



政策・事業実施
行政計画への反映・利活用
調査・研究の実施・評価

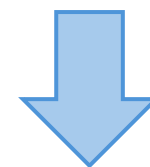


- ・データ連携/連結
- ・こどものBPS*の状況の実態把握
- ・施策評価

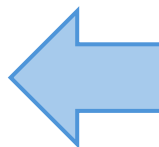
*BPS: Biopsychosocial



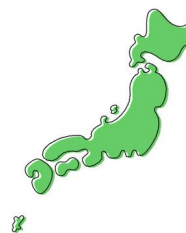
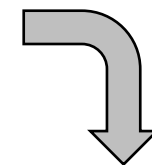
こどもたちのWell-beingを
高めるPDCAサイクル



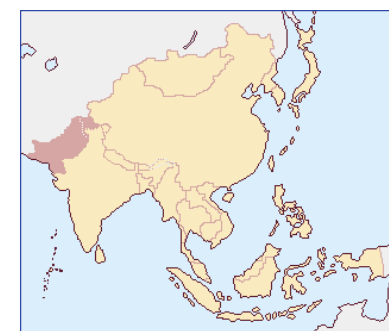
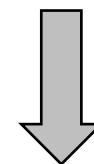
解決すべき課題設定
進捗の共有・議論
合意形成・意思決定



(将来的に)

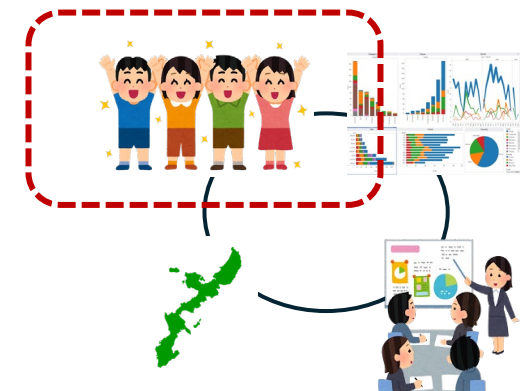


全国各地へ



アジアへ

各種データ収集



こどもたちの実態やその背景要因を深掘りすることが必要

- 既存調査・事業の利活用

- 沖縄県こども・若者計画
- 沖縄こども調査
- こども計画策定のための県民アンケート
- 子どもの貧困調査研究コンソーシアムetc



令和6年度
沖縄こども調査（小中学生）
概要版

令和7年3月 沖縄県

- 新規データの取得

- 現在のすべてのこどもを対象にした調査
- 成人・若者に、こども時代にあって/あったらよかったことを尋ねる調査
- 親世代への調査

1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見の推進

こどもの自殺対策緊急強化プラン（令和5年6月2日）を踏まえ、1人1台端末等を活用して児童生徒の心や体調の変化を把握し、自殺リスク等の早期発見につなげる取組を推進するため、「児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）」（令和5年7月10日付け）において、以下を教育委員会等に周知。

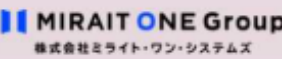
- 無償・有償で利用できる健康観察・教育相談システムの一覧
- Googleフォーム又はMicrosoft Formsを活用した無償のアンケートフォーム作成マニュアル

< 健康観察・相談システム一覧（抜粋） >

無償

会社名	システム名	機能
Google	Google フォーム	・健康観察 ・相談窓口
Google	Looker Studio 【Google】Looker Studio in a minute -YouTube	・データの可視化
Microsoft	Microsoft Forms	・健康観察 ・相談窓口
Microsoft	Reflect	・健康観察

有償

会社名			
一般社団法人 RAMPS	公益社団法人 子どもの発達科学研究所	スタンドバイ株式会社	株式会社 ミライト・ワン・システムズ
			
株式会社 リーバー	株式会社 EDUCOM	株式会社 LoiLo	株式会社 Welcome to talk
			

< アンケートフォーム作成マニュアル >

○本マニュアルでは、Google フォーム™、Microsoft Forms を用いて、下記の質問項目を設定する方法や、GAS（Google Apps Script）やマクロの起動方法に

健康観察・教育相談アンケート作成マニュアル

本マニュアルでは、Google フォーム™、Microsoft Forms を用いて、下記の質問項目を設定する方法を解説いたします。

<質問項目>
1.日付 2.クラス 3.出席番号 4.名前 5.体調 6.心の状態（心の天気）
7.教育相談の希望 8.相談相手の指定 9.自由記述欄

児童生徒に健康観察・教育相談のアンケートを行う

Google フォームで Web アンケートを作成・共有することで、健康観察や教育相談を行うことができます。



マクロ起動方法について

Microsoft Formsで作成した回答Excelで、マクロを起動させる方法を解説します。

① Excelファイルを開き、マクロを起動するマクロボタンにクリックします。
[Microsoft Formsで作成した回答Excelを開く] = [ファイル] = [マクロ] = [マクロを起動]
② [マクロの種類の指定] = [マクロの種類] = [マクロの種類] = [マクロの種類] = [マクロの種類]



「心の健康観察」の導入を進めている教育委員会等の声

- 令和5年2月文部科学省実施の「不登校対策に係る取組状況調査」において、「アプリ等を活用して児童生徒の心や体調の変化を把握し、いじめや不登校等の未然防止・早期把握の取組」を既に行っていると回答している411市区町村に対して個別にアンケート調査を実施。取組の効果について各自治体の担当者から寄せられた声は以下のとおり。

A教育委員会

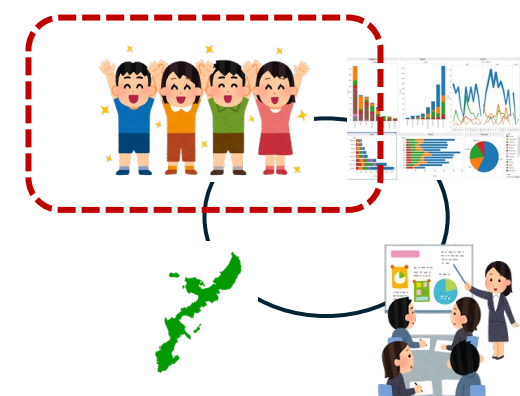
- 令和4年4月から域内の全小学校高学年及び中学校で有償アプリを導入。
- 市全体での相談件数は、アプリ導入前は教育委員会宛のメール相談のみ実施しており、年間で50件ほど。**アプリ導入後は約680件に増加し、いじめの認知件数も導入前約20件⇒導入後約110件と増加した。**
- 相談内容はいじめに限らず、自傷行為や自殺念慮に関わるものもある。児童生徒が抱える悩みなどを早期発見が可能になり、早い段階から寄り添った対応が行えるようになっている。

B教育委員会

- 令和3年4月から、域内の全小中学校でGoogleフォームを活用した「心の健康観察」を実施。
- 導入以降いじめの認知件数が増加しており、**導入前の令和2年度は約40件⇒導入後の令和3年度は約270件、令和4年度は約420件**となっている。
- 個別事案では、長期休業中に、児童生徒から家庭のことで訴えがあり、即座に児童相談所、警察に連絡し、早期対応につなげた事案があった。
- 児童からは、「今は知っておいてもらうだけでよい」といった相談も多く、児童生徒にとって気軽に相談しやすくカウンセリング効果が高いツールと考えている。

＜その他教育委員会等から寄せられた声＞ ※寄せられた声の中から抽出して掲載

- ・ 言葉で伝えたり、先生に話すのが苦手な生徒もあり、アプリのフォームに沿って相談することができるので、相談しやすいのではないかと考えている。
- ・ 相談の内容には、「●●さんにちょっかいをかけられた」などわざわざ先生に言葉で伝えられないような話でも、文字にして伝えられることで、相談のハードルが低く感じられるのではないかと。
- ・ 朝の健康観察と兼ねて実施しており、出席状況などとあわせて全教職員が全ての児童生徒の状況を確認することができるため、各児童生徒を学校全体で見守る意識が向上している。
- ・ これまでは、個々の担任教諭の主観で児童生徒の変化を把握していたが、アプリを活用し、数値で捉えることができるようになったので、ケース会議や児童生徒理解の材料として活用できている。
- ・ **普段の様子からは気づけない部分も可視化でき、児童の姿を客観的に見直すことにつながった。**
- ・ **導入校では、不登校の新規発生が令和4年度の同時期と比較して半数以上減少している。**

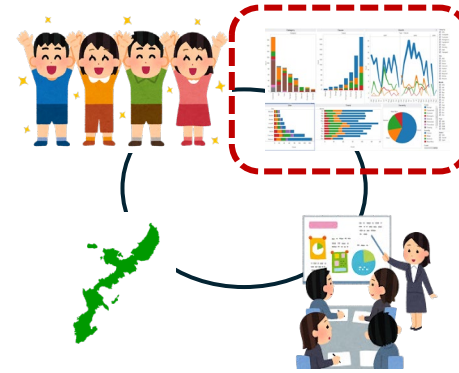


アプリなどによる 相談・調査基盤構築

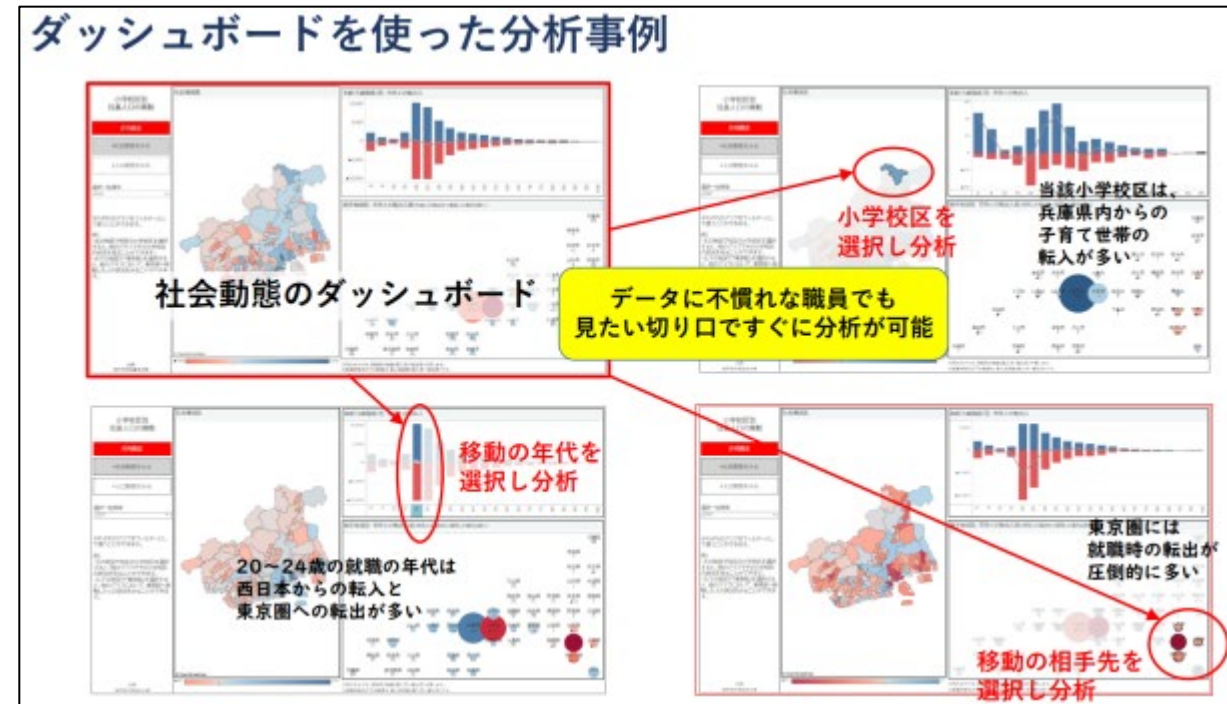
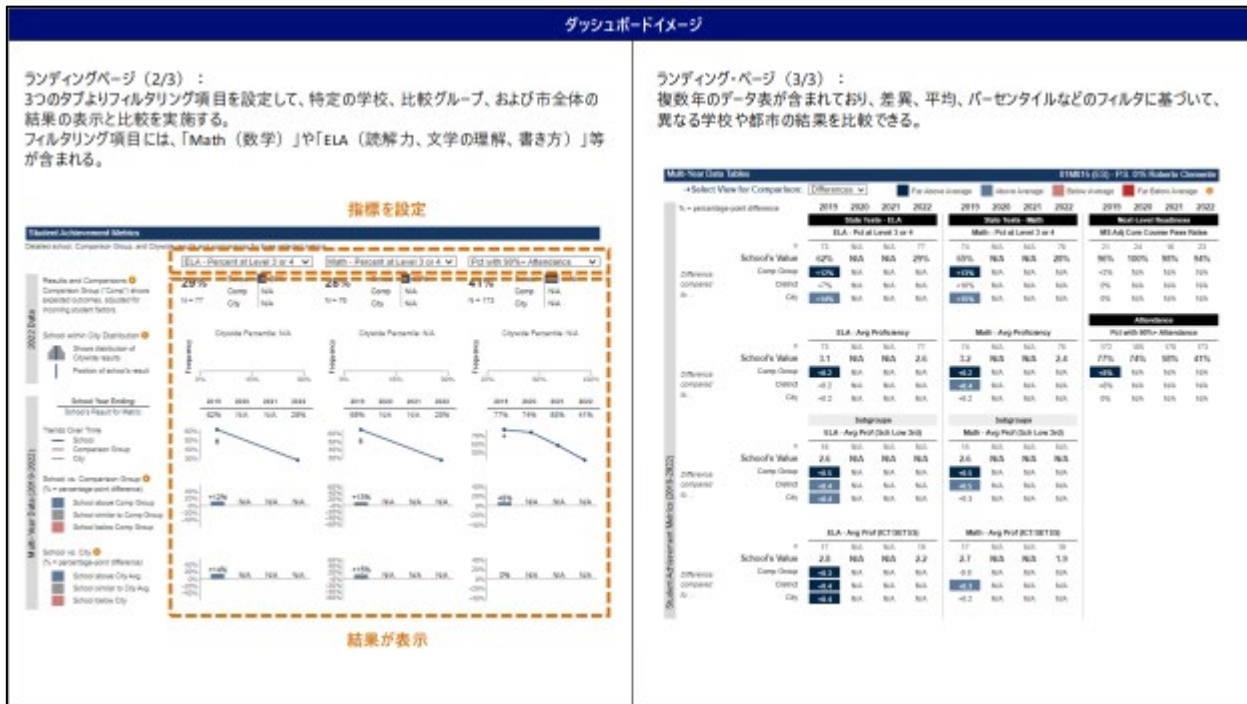
様々な用途に資する

- ・ 相談しやすい環境
- ・ 異常の早期発見
- ・ いじめ/不登校対策
- ・ 実態把握のためのアンケート実施
- ・ こどもの声の収集

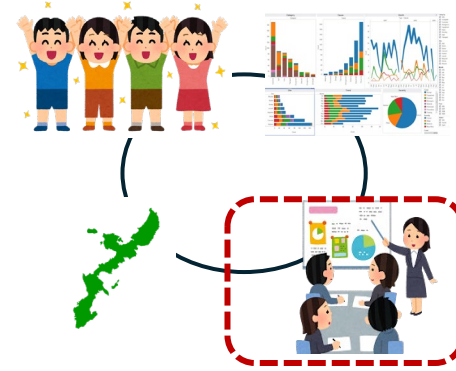
データ解析・課題の可視化



- 収集したデータをダッシュボード化し、EBPMの推進に有効活用
- 協議体、自治体などの組織、教員・支援者などの個人が活用できる



課題設定・検討



協議体の主な役割

- VISIONやアウトカムなどの方向性の議論・提言
- 実態調査の項目などの検討
- 対応すべき課題などの提言
- 沖縄県こども・若者計画の基本理念
 - 誰一人取り残さないこどもまんなか社会の実現
 - こどもまんなか社会
 - 誰一人取り残さない、沖縄らしい優しい社会
 - すべてのこどもたちが、現在から将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができる社会
 - 安心してこどもを産み育てることができる社会

対応策の実施



- 施策の候補の選定
 - 事例の収集と蓄積
- 施策の実施
 - ここが一番のポイント:どのような枠組みで多岐にわたる施策を展開できるか
- 施策の検証
 - 効果の検証とエビデンスの創出
 - ☞ほかの自治体のこどものWell-being向上に貢献
 - ☞沖縄のこのプロジェクトの注目が高まり、更なる発展につながる
 - 沖縄県内における施策評価・疫学研究の体制の更なる強化と人材育成